取組概要：函館漁港（北海道函館市）

様式２

概　要

○函館漁港は、600万人の観光客が訪れる観光都市函館の主要観光エリアに位置し、特産のイカの水揚げ、函館山の眺望、夕景、石積み防波堤など多様な地域資源がありながら、十分に活用されていない。
○交流プログラム・漁業体験・フォト企画などの実証を行い、来訪者数や動線など、活用推進計画の基礎となるデータを収集し、観光地に近接する都市型漁港における交流促進拠点施設のあり方を検証。
○漁港の価値発信や水産物理解の向上、交流人口の増加を目指し、将来的に持続可能な漁港活用モデルの構築につなげる。

海業の取組概要

都市型漁港としてのポテンシャルと地域資源を生かし、
以下①～③を組み合わせた小規模実証を実施する。

①来訪動機となる交流プログラム

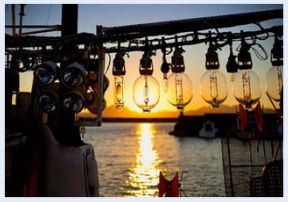
漁港の景観解説や発信企画を通じて、漁港の価値や水産物の魅力を伝える。
（発信・案内企画）

②漁業体験・“採って食べる”体験

釣り体験やその場で調理して食べるプログラムを提供し、水産物のおいしさや鮮度を実感してもらう。
子どもにも学習効果が高い。

③漁港景観を活かしたフォト企画

夕景や石積み防波堤などを題材にしたフォト企画を通じ、新たな視点の活用資源の発掘し、漁港の新たな交流拠点としての可能性を検証する。



上記のプログラム等を通じ、来訪者数・主要動線・滞在行動を観察し、漁業活動への影響（動線・時間帯・安全面）や漁業者の負担、アクセス課題など、活用推進計画に必要な検討事項を整理する。

効　果

令和8年度の実証実験を通して、
・活用推進計画の基礎となる効果指標を収集する。
・交流人口・景観認知・理解度・再訪意向などの効果を把握する。

協力体制

産学官が参加するチーム（北海道教育大学、函館市漁業協同組合、北海道開発局、各民間企業）がイベントを企画し、漁港管理者等（北海道、函館市）とも連携して計画を検討していく。

スケジュール

令和7年度 地域課題整理・企画検討
令和8年度 実証実験の実施・効果測定
令和9年度 活用推進計画（案）作成・継続実施の仕組みづくり
令和10年度～ 事業展開に向けた漁港施設等整備